様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０６２１

研究課題名（和文）語学教育におけるコンピュータ：日本、韓国、ニュージーランド英国を比較して

研究課題名（英文）A comparison of e-learning of foreign languages in Japan, South Korea, New Zealand and the UK.

研究代表者
ＣＯＷＩＥ　ＮＥＩＬ　ＪＡＭＥＳ（NEIL JAMES, COWIE）

岡山大学・言語教育センター・教授

研究者番号：３０３７９８１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：ICT活用方法の概要を検証するため大学で語学を教える研究者が、日本国外の８大学13人の語学教員に授業観察、インタビューを行い、ICTを活用しているこれら“エキスパート”13人が、どういったハードの媒体、ソフトのツールを活用しているかを検証した。授業形態は、ICTが課題・宿題のみに使用されている「伝統的な」ものから、ICTが授業の一部に活用されている「混合的な」もの、あるいは教員と学生が顔を合わすことのないすべてオンラインの授業と多岐にわたることが判明した。これらの活用方法を４種類に総括、分類することにより日本の大学でのICTのさらなる活用方法を模索するためのモデルを提言している。

研究成果の概要（英文）：Neil Cowie and Keiko Sakui are two university language teachers. They visited experts in technology in six countries in order to find out what kinds of e-learning activities are being used. They observed lessons and interviewed 13 teachers in eight universities. They discovered that these expert teachers use many kinds of technology to help their students improve their language skills. The technology includes hardware (computers, tablets and smartphones) and new software tools that allow students to collaborate and create projects online. Lessons varied from traditional ones where technology was used for homework to ones where students can go online during the lesson (‘blended learning’). Some of the teachers never meet their students and have developed totally online courses. The results of the study can be used as a model guide to help other teachers and institutions in Japan plan and implement language teaching with technology.

研究分野：English language education

キーワード：e-learning　digital technology　foreign languages　case study　online　blended　Web 2.0 tools

１．研究開始当初の背景

昨今、e-learning を活用した語学教育は教育現場に変革をもたらしているが、世界の大学のレベルで具体的にどういったツールが用いられ、それを実際語学教員がどう用いているかという実地調査をした研究はまだ数が少ないといえる。

本研究は、６か国（アメリカ、イギリス、オーストラリア、シンガポール、日本、ニュージーランド）の大学を訪問しそこでの e-learning のエキスパートと言われている語学教員へのインタビュー、観察記録を質的に分析・検証したものである。これらの e-learning 活用実践例をもとに、ツールはどう用いられているのか、教授法にはどんな特徴があるのか、教員の役割はどう変化しているか、などという点を明らかにしようとする。また、これらを受けて、日本の大学では今後どう e-learning を活用すべきかを考察、提案する。

２．研究の目的

A) 外国語教育現場でどういったタイプの e-learning が活用されているか概要を検証する。
B) e-learning が活用されている外国語教育の実態を検証する。
C) e-learning が活用されている場合の教員の役割、その変化について検証する。
D) e-learning の活用方法をフレームワークとして分類することにより、教育現場の異なる関係者（学生、教員、技術サポート職員、および管理職者など）のコミュニケーションを促進する手助けとなる。

３．研究の方法

被験者には、専門家・エキスパートとして評判のある語学教員を選んだ。さらにその専門家が知っているさらなる専門家を紹介してもらいながら被験者を集めた。地理的に限定させないためになるべく異なる国から被験者を選ぶ一方、データを限定させるために大学教育における e-learning とテーマを絞って被験者を選定した。

2012 年 6 月から 2014 年２月まで上記の大学・被験者を訪問し、被験者にインタビューした。各インタビューは 50 分から 90 分で、授業見学が許される場合は見学を行ない観察記録をとった。これらのデータはテーマが特定されるまで質的分析された。

注）被験者数が少ないため、ここではデータをケーススタディーとして取り扱う。そのため、これらのデータはそれぞれの国別の e-learning を代表しているものと理解されるべきではない。ただし、これらのケーススタディーは、地理的に離れた場所に存在するために、e-learning に関する概括的理解を得られるものと期する。

４．研究成果

A.４つのモデル

ケーススタディーで収集したデータは４つのタイプに分類できる。

１．　教室内では e-learning を使用せず、e-learning は教室以外（課題・自主学習など）で用いられている。
２．　e-learning を教室内で部分的に使用。目的は主に語学のためのもので語彙や文法学習に使われる。
３．　e-learning を教室内で主体的に使用し、語学自体の練習が目的というよりは、プロジェクトを完成させる道具として使用される。
４．　教室授業は行わずすべてオンラインで行われる。

この研究結果ではどのタイプがより優れているという順序付けをしているのではなく、あくまでもこの４つが存在するという見地からこの４タイプを提示している。各教員や各教育機関で現在の e-learning の活用法を客観的に分析し、これからの活用法を探るうえで参考にしていただきたい。またこのタイプの分類が、教員間あるいは教育機関で e-learning について関わる人たち（学生、テクニカルサポート、管理組織など）との話し合いや方向性を決める上で「共通理解」につながるツールとなってくれれば幸いである。

B. 具体的に、e-learning にはどんなツールが使われているか。

ほとんどの被験者は、LMS(Learning Management System の略）と言われる学習管理システムと、Web. 2.0 プログラムを組み合わせて使用していた。LMS の例としては、Moodle, Blackboard, Edmodo などがあり、Web. 2.0 には、google doc などのクラウド、ソーシャルメディア、音声録音プログラム、ビデオ作成、プレゼンテーション用ソフトなどが使用されていた。

LMS は所属機関が大学全体として使用しているものが多かったが、Moodle, Google+ などを教員が個人で LMS として使用しているケースもあった。

Web. 2.0 システムのほとんどは語学学習のためのツールではなく、プレゼンテーションをするもの、ドキュメントをシェアーできるもの、音声・動画を録音・録画しそれをシェアーするものなど、一般的な使用目的として存在するものを語学教員がその特徴を利用して、語学学習用に用いている例であった。

また被験者の中には自分で作成した語学用ゲーム（例えば漢字ゲームなど）を使用しているケースもあった。これは被験者の教員がすべて作成するのではなく、同じ大学のコンピューターサイエンス専攻の学生などと協同で作成していた。

C. 教育に対するアプローチと教員の仕事量

被験者の多くは社会構造主義を教育指針として掲げ授業を計画し実践を行っていた。具体的には協同作業を多く用い、学生主体の自律的授業をすすめ、学習は経験によっておこるという立場から授業を行っていた。

e-learning が浸透すると、教員が不必要になるのではないかという危惧があるが、実際、被験者たちはツールの特性を理解し、それを駆使していくのが教員の役割であり、教員の必要性はなくならないであろうと述べている。

また、学期前など教材などの準備をオンラインでセットアップする必要があるため仕事量は e-learning を用いない授業形態に比べ、増えたとする一方、いったんセットアップすればそれを次年度などに応用できるのでこの点では仕事量が軽減されるという点もある。

また、技術や通信ツールが発達することにより、学生とのやりとりが頻繁にできることは利点であるが、この分、学生はフィードバックをよりはやく受け取ることができると期待するためこういった面では仕事量が増えたと感じる教員もいた。

D. 大学サポート

研究を始める前は、被験者すべてが e-learning がサポートされている環境で授業を行っていると考えていたが、必ずしもそうではなかった。確かにシステム的サポートが万全である環境で e-learning を実践している被験者もいたが、そういった手厚いサポートがなく孤軍奮闘している被験者もいた。

この点からエキスパートたちが必ずしも恵まれた環境で e-learning を活用しているというわけではなく、各教員は様々な環境・設備の中で e-learning を取り入れ、活用していると言えるようである。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）

1. Cowie, N., Sakui, K. (2014). Take your pick: Out-of-class, blended language and Web 2.0 projects, and online. *The JALT CALL Journal*, 10, 3, 273-286.
2. Cowie, N., Sakui, K. (2013). It's never too late: An overview of e-learning. *ELT Journal*, *67*, 4, 459-467.

〔学会発表〕（計　12　件）

1. November 26th, 2014. (Keiko Sakui). Language Learning Motivation, Personal Stories, Gamification and Four Kinds of Fun. Okayama University, Okayama, Japan.

2. November 22nd 2014. (Neil Cowie). E-learning: Out-of-class, blended language and Web 2.0 projects, and online. JALT National Conference. Tsukuba, Japan.

3. October 5th, 2014. (Neil Cowie and Keiko Sakui). Four-part framework of approaches to e-learning for language teachers. Osaka Tech Day. Otemae University, Itami, Japan.
4. September 4-6th, 2014. (Neil Cowie and Keiko Sakui) Teaching languages with digital technology: E-learning in six countries. BAAL Annual Conference. University of Warwick, Coventry, UK.

5. August 22nd, 2014. (Neil Cowie). Situated e-learning practices across borders, EUROCALL Annual Conference. Groningen University, Groningen, Holland.

6. June 21st, 2014. (Neil Cowie) Google apps for language classes. Kobe JALT Chapter Tech Day. Otemae University, Itami, Japan.

7. June 7th, 2014. Take your pick: out-of-class; blended; project; or online. (Neil Cowie and Keiko Sakui). JALTCALL Annual Conference. Sugiyama Jogakuen University, Nagoya, Japan.

8. February 1st 2014. (Neil Cowie and Keiko Sakui). Four e-learning models to guide university teachers of second and foreign languages. Paperless: Innovation and Technology in Education Conference, Kanda University of International Studies, Chiba, Japan.

9. October 26th 2013. (Neil Cowie and Keiko Sakui). E-learning for non-techie teachers. JALT National Conference. Kobe, Japan.

10. September 11th 2013. (Neil Cowie and Keiko Sakui). Learning from e-learning experts across borders. EUROCALL International Conference. Evora, Portugal.

11. June 1st 2013. (Neil Cowie). Learning from e-learning experts: Potential teaching roles and approaches. JALTCALL Conference. Matsumoto, Nagano, Japan.

12. February 9th 2013. (Neil Cowie). E-learning trends: Lessons from experts in four different countries. Okayama JALT Chapter Meeting, Okayama, Japan.

その他〕
ホームページ等

1. February 15th, 2015 (Neil Cowie, Keiko Sakui and Russell Stannard). Flip, Blend and Project: Technology for Language Teachers Webinar. Available at: https://www.dropbox.com/s/2t9qpmkaeoc5zjq/Converted.mp4?dl=0

2. Technology and Language Learning http://cowiesakui.sakura.ne.jp

６．研究組織

(1)研究代表者
COWIE NEIL JAMES (COWIE NEIL JAMES)
岡山大学、言語教育センター、教授
研究者番号：３０３７９８１２

(2)研究分担者
作井　恵子　(SAKUI KEIKO)
神戸松蔭女子学院大学、文学部、准教授
研究者番号：７０４１１９０７